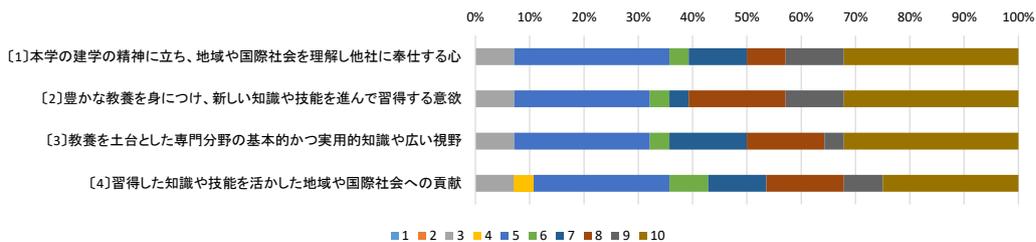
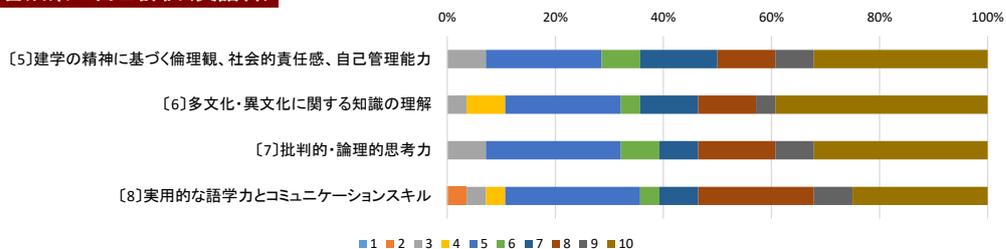


学習成果の自己評価(短期大学)



学習成果の自己評価(英語科)



学生に対し本学で定める学習成果が卒業時にどれだけ身についたかを10段階で評価してもらった。

【短期大学の学習成果に対する自己評価】

すべての学習成果において、ほぼ同様な自己評価の表れ方をしている。評価[5]をつけている学生がどの学習成果でも9割程度いる。その中でも学習成果[1],[2],[3]は評価[10]としている学生が30%以上おり、評価が高い項目である。

【英語科の学習成果に対する自己評価】

英語科の学習成果もすべての学習成果において50%以上が評価[8]をつけており、達成度は高いといえる。その中でも特に自己評価の高いのが学習成果[2]で、40%以上の学生が評価[10]をつけている。

沖縄キリスト教短期大学2024年度満足度調査

保育科

調査期間：
2025年1月6日（月）～
2025年1月24日（金）

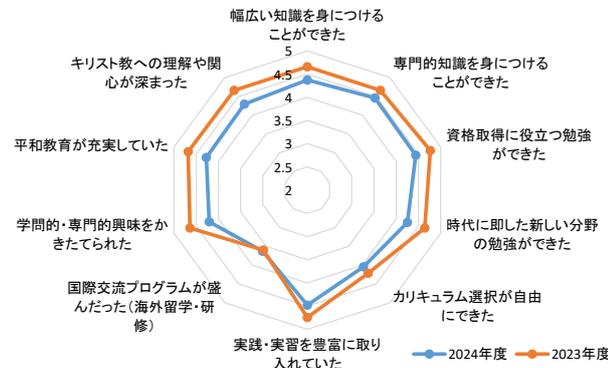
検証内容

今年度卒業の学生を対象として満足度調査を行った。質問にはカリキュラムの適切性や施設・設備・制度に関するもの、学生生活に関する質問を設けている。得られた回答は集計し項目毎の平均値を前年度のデータと比較した。また、本調査では、学習成果の到達度を学生に自己評価してもらっており、その結果と他の学内データと照らし合わせて総合的に分析した。

【アンケート回収率73.8%】（前年度83.9%）

【カテゴリ毎の満足度】

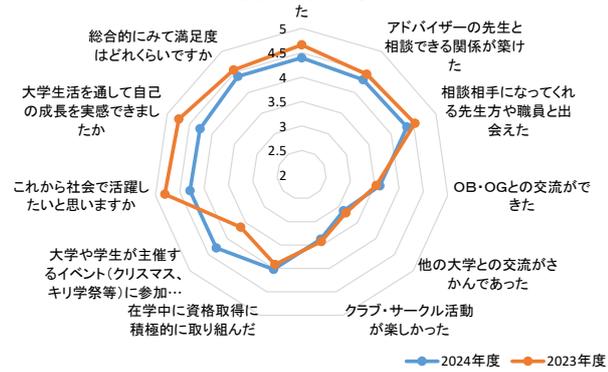
カリキュラムの適切性



施設・設備・制度に関する満足度



大学生活に関する満足度



各数値の基準
満足:5、やや満足:4、どちらともいえない:3、やや不満:2、不満:1
そう思う:5、ややそう思う:4、どちらともいえない:3、あまりそう思わない:2、そう思わない:1

【学生からのコメントのテキストマイニング】
《一番学びの大きかったこと》



《早くに知っておきたかったことやつまずきを感じたこと》



それぞれの項目の平均値を出し、前年度の平均値とその変化率を計算しその変化率が5%以上のものを下記に列挙しました。

【カリキュラムの適切性】

10項目中、前年度より上がったのが1項目、下がったのが9項目、その中で変化率が5%を超える項目は次の7つであった。
・幅広い知識を身につけることができた(-6.1%) / ・資格取得に役立つ勉強ができた(-6.9%) /
・時代に即した新しい分野の勉強ができた(-8.4%)
・実践・実習を豊富に取り入れていた(-5.6%) / ・学問的・専門的興味をかきたてられた(-9.5%)
・平和教育が充実していた(-8.8%) / ・キリスト教への理解や関心が深まった(-7.9%)

【施設・設備・制度に関する満足度】

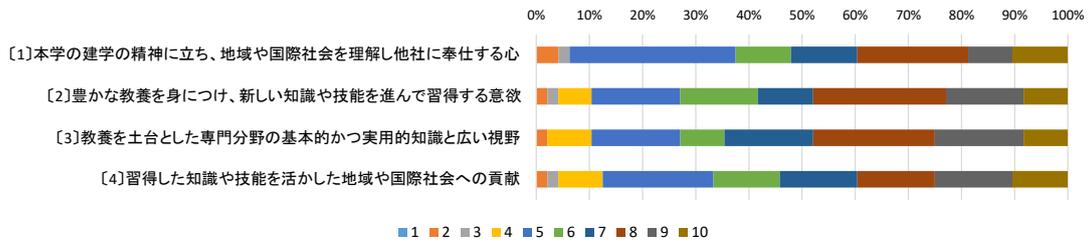
13項目中、すべての項目が前年度より下がっており、その中で変化率5%を超えているのは次の9項目であった。
・食堂・カフェが充実していた(-5.8%) / ・購買部が充実していた(-8.9%) /
・トイレがきれいだった(-5.3%) / ・図書館が使いやすいかった(-5.5%) / ・IT環境が充実していた(PC教室、学内無線LAN環境等)(-7.0%) / ・奨学金制度が充実していた(-10.2%)
・下宿やアルバイト、ボランティアの情報提供や紹介が充実していた(-7.4%) / ・就職関連資料が豊富だった(-8.7%) / ・大学が親身に就職指導してくれた(-8.7%)

【大学生活に関する満足度】

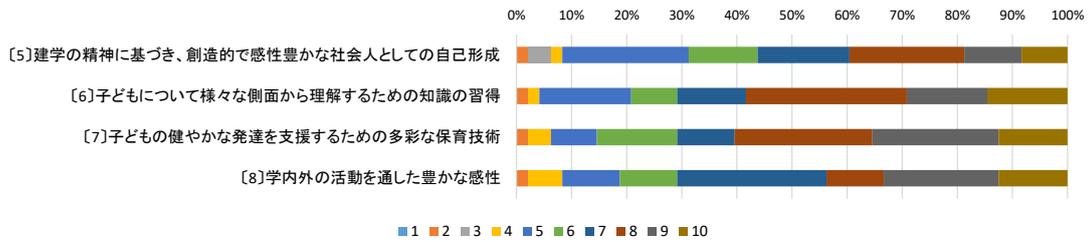
11項目中、前年度より上がっているのが2項目、下がっているのが9項目であり、変化率が5%を超える項目は次の8項目であった。
・たくさんの友人ができた(-5.7%) / ・大学や学生が主催するイベント(クリスマス、キリ学祭等)に参加できた(18.0%) / ・これから社会で活躍したいと思いませんか(-10.7%) / ・大学生活を通して自己の成長を実感できましたか(-10.0%)

前年度と比較してほとんどの項目で満足度が低い結果となっている。大きな下落率ではないものの、総合的な満足度を聞いている項目でも前年度と比較して落ちているため、この結果を真摯に受け止めて満足度を上げる努力が必要となってくる。

学習成果の自己評価(短期大学)



学習成果の自己評価(保育科)



学生に対し本学で定める学習成果が卒業時にどれだけ身についたかを10段階で評価してもらった。

【短期大学の学習成果】

すべての学修成果において評価[5]以上で回答している学生が9割程度であった。また、評価[10]と回答している学生の割合がどの学習成果も同じくらいおり、評価[9][8]と回答している学生の数に違いがみられる。

【保育科の学習成果】

すべての学習成果において評価[5]以上で回答している学生が9割以上おり、学習成果[6][7]の保育の知識やスキルの面においてはさらに学生の自己評価は高くなっている。